

## ごあいさつ

2019年は、「平成」から「令和」への改元があり、熊本市におきましては震災復興のシンボルとなる熊本城の特別公開や熊本城ホールの開業、ラグビーワールドカップや女子ハンドボール世界大会の開催など、震災からの復興、そして更なる飛躍に向けた年となりました。また、熊本博物館におきましては、2018年（平成30年）12月1日のリニューアルオープンから2年目を迎え、新生博物館の本格始動の年となりました。

当館は、1974年（昭和49年）以来、四つの基本理念「広域情報型・市民開放型・郷土立脚型・人間密着型の博物館」を継承しています。その理念に基づき、本年度も展示活動、教育普及活動、調査・研究活動、収集・保存活動を行ってきました。特に、博物館の主要事業である展示活動は「未来へつなぐ熊本の記憶 ―集める・伝える・創造する」を全体テーマに着実に進め、教育普及活動では子どもから大人まで当館をご利用いただく皆さまが楽しく学べる様々な教育活動を積極的に行っております。学校教育支援事業にも力を入れ、新たな学びの機会となるスクールシャトルバス事業もまずは小規模ながら始めました。

特別展等の取組としましては、7月から昆虫標本や世界的に有名な昆虫カメラマン栗林慧氏の作品等を展示した「世界の昆虫」展、10月からは熊本城下の歴史の変遷を辿る「追憶の熊本 ～画家・甲斐青萍が描いた熊本城下の記憶～」展を開催しました。また、学芸員の調査・研究等をもとに5本の企画展も開催しています。その中でも春季企画展は、近隣館である熊本県立美術館との初の連携企画展となりました。熊本市塚原歴史民俗資料館でも、文化振興課との共催で紹介する「熊本市遺跡発掘速報展」を開催したところです。

イベントでは、ゴールデンウィーク中は「GWは博物館へ!」、2月は「くまはく誕生月間」、11月は旧細川刑部邸のライトアップに合わせたナイトミュージアムとプラネタリウム新企画「熟睡プラ寝たりウム」など多彩な催しを展開し、多くの皆さまにご来館いただいております。なお、これらの事業の実施にあたりましては、諸団体の皆さまにも企画や準備、広報など幅広くご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、当館は2022年（令和4年）に創立70周年の節目を迎えます。長年蓄積された熊本の歴史や文化、人と自然との深いかかわりを楽しくわかりやすく伝え、親しみやすい博物館を目指して今後も努めてまいります。引き続き、皆さまのより一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

熊本博物館長

田端 文一